

令和3年度 学校運営に関する学校評価を受けて

東根市立第三中学校
校長 富塚 義幸

本校教育活動（学校経営の重点項目など）に対する保護者アンケート及び生徒アンケートの結果を受けて、本校学校運営についての自己評価を行いましたのでお知らせいたします。お寄せいただいたご意見などを来年度の教育活動に活かすとともに、本校教育活動のさらなる充実を図ってまいります。ご協力ありがとうございました。

◆視点1：学習・授業にかかわること

4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない

※保護者・生徒とも無記名での回答です。 数字 = 上段：保護者（%） 下段：生徒（%）

問	質問内容（生徒にも保護者と同じ内容の問いかけをしています。）	4	3	2	1	4と3の割合		
						R3	R2	増減
1	お子さんは、授業に集中して取り組むことができると言っている。	29	61	9	1	90	86	↗
		59	37	4	0	96	96	→
2	お子さんは、授業中自分の考えを発表したり、互いの意見を交換したりして、自分の考えを深めることができたと言っている。	29	51	17	3	80	71	↗
		59	25	16	0	84	89	↘
3	お子さんは、授業がわかりやすく、意欲的に取り組めると言っている。	23	51	23	3	74	75	↘
		59	34	7	0	93	85	↗
4	お子さんは、家庭学習に必要感を感じて取り組み、学校での学習に活かすことができていると思う。	22	39	33	6	61	70	↘
		53	34	13	0	87	83	↗

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ コロナ感染予防対策を講じつつ、言語活動や協働的な学びを重視した授業づくり・ICT 活用の工夫。
- ・ 生徒の希望制による少人数授業の推進（数学など）。
- ・ 終わりの会で「一日の学びを振り返る」とともに、家庭学習の見通しを立てる時間を設定（学校独自の「ほっとノート」を活用し、授業と家庭学習をつなげて回す取組み）。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 生徒同士が交流しながら、課題を解決する学習に苦手意識を持つ生徒が多いようです。
- ・ 授業の振り返りと家庭学習がさらに結びつく指導や支援が必要だと感じています。
- ・ 学習に意欲的に取り組めるような授業づくりが求められています。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 指導と評価の一体化を図る授業改善により、教師の指導力向上に力を入れていきます。そのために、研修の充実を図り「授業を核にした学校づくり・学校経営」を推進していきます。
- ・ 「ほっとノート」活用の効果を上げるため、終わりの会での振り返りの仕方を吟味し、「授業で理解不十分なところ」を明らかにした上で、家庭学習の計画を立てさせていきます。
- ・ 今年度の研究テーマ「学びのつながりを実感できる生徒の育成」～学習の見通しと振り返りの充実を通して～はまだ1年次であり、次年度さらに深化させていきます。
- ・ コロナに関わる予想外の休校・学年閉鎖等への対応が迅速にできるよう、オンライン授業の構築に力を入れていきます。

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R3	R2	増減
5	お子さんは、学校に楽しく登校している。	53	32	14	1	85	90	↘
		70	23	4	3	94	84	↗
6	お子さんの学級は、よさが認められ居心地がよく、思いやりのある友だちが多いと思う。	54	39	7	0	93	87	↗
		79	20	1	0	99	95	↗
7	お子さんは、学級の係活動や専門委員会、生徒会活動に積極的に取り組んでいると思う。	59	38	3	0	97	94	↗
		82	16	1	1	97	95	↗
8	お子さんは、部活動に意欲的に取り組んでいると思う。	52	31	15	3	82	86	↘
		68	23	8	1	91	98	↘
9	お子さんは、コロナ感染防止対策を心がけて学校生活を送っていると思う。	62	34	3	1	96	96	→
		81	20	0	0	100	99	↗
10	お子さんは、学校のきまりや服装、時間等をきちんと守り生活していると思う。	56	40	3	1	96	92	↗
		82	16	3	0	97	98	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 年2回の「Q-Uアンケート（生活満足度調査）」の実施。外部講師も招聘しながらの結果の分析と具体的支援策の検討と共有。
- ・ 生徒会や学校行事の実行委員会組織を動かすことによって、「自分たちの手でつくる喜び」や「やり遂げた達成感」に結びつける指導と支援（コロナ禍による新たな創造）。
- ・ 定期的な教育相談、自己生活アンケートの実施による生徒に寄り添った指導。
- ・ 「部活動方針」の啓発及び方針（国・県・市・本校）に基づく活動の実践。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 「楽しく登校している」で、2と1の評価があることを真摯に受け止めなければなりません。
- ・ コロナ禍のため、学校行事の実施方法を見直したことで保護者が生徒の姿を参観できたことは、大きな意義がありました。
- ・ 昨年度、コロナ対策により参集型の生徒会活動を控えてきたことが影響したためか、教師側はリーダーが中心となった自治的な活動に主体性が感じられないと捉えています。しかし、生徒自身は積極的に取り組んでいると捉えているようです。このギャップを埋めていくために、生徒が達成感や成就感を味わうことができる活動を仕組んでいく必要があります。
- ・ 部活動に対する意識に差があるようです。スポ少のあり方も含め、検討していく必要があります。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒がより主体的で協働的な学校生活を送れるよう、主体的な生徒会活動に力を入れ、生徒自ら自分たちの学校をよりよくしていこうとする自治力の育成に努めます。
- ・ 年度初めに本校部活動方針の内容をお知らせし、その周知を図ります。生徒の声を聴き、スポーツ少年団活動の実態把握に努めます。外部コーチやスポーツ少年団の指導者と連携を図り、今後とも適正な部活動運営に努めます。
- ・ 部活動は異学年の交流をとおして、バランスのとれた心身の成長と目標をもった学校生活を送るために意味のある時間です。希望者による任意加入制については、その声を真摯に受け止め、継続課題としていきます。北村山地区校長会でも話題にしているところです。（大会への参加条件、活動の「地域移行」や外部との連携による選択肢の拡大など、国全体の体制に係る部分を含め、慎重に検討していきます。）

◆視点3：教育相談・コミュニケーションにかかわること 上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R3	R2	増減
11	お子さんは、先生方が話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていると言っている。	36	51	11	1	88	84	↗
		69	23	8	0	92	93	↘
12	お子さんは、努力したことやよい点を先生方が認め、正しく評価してくれると言っている。	38	56	6	1	93	91	↗
		71	24	5	0	95	94	↗
13	お子さんは、道徳や学級活動、総合や校長講話で、生き方や将来のことについて考えることができたと言っている。	32	47	18	3	79	84	↘
		71	21	7	1	92	94	↘
14	お子さんは、家庭での来客や地域の方々に対して、自ら進んであいさつができています。	39	50	8	3	89	92	↘
		78	17	5	0	95	95	→

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 毎月1回の「自己生活アンケート」などを通して、情報収集に努め、生徒の思いを職員間で共有し、教育相談を迅速かつ継続的に実施。
- ・ 「いじめ防止基本方針」に基づく指導実践。いじめにつながる言動への組織的対応と家庭との連携を重視（いじめに関する調査の年2回実施）。
- ・ 市の「いじめ防止サミット」を本校生徒会が主担当として実施。それらの内容を全校集会で共有し、いじめ防止活動を実施。例：「E7 笑顔宣言」「ピンクシャツ運動」の実践。
- ・ 毎朝の生徒会生活委員会によるあいさつ運動。職員による立哨活動。
- ・ 校長講話を実施し、生徒感想へのコメント記入。その感想を各学年代表一名が全校集会で発表。

◇生徒の実態やアンケートの結果より

- ・ 小規模校であることにより、生徒と教師の距離が近いと感じている生徒が多く、実際に、個別の相談にに応じている様子がよく見受けられます。しかし、2と1に評価があることも事実であり、自己有用感や自己存在感を感じられないまま学校生活を送っている生徒がいることも事実です。
- ・ コロナ対策により、大きな声を出すことを控える習慣からか、はきはきとした声で気持ちのよいあいさつをする光景が少なく感じます。しかし、生徒自身はしっかり取り組んでいると捉えているようで、生徒と教師、保護者の認識にずれがあることがわかります。
- ・ 道徳科の充実やキャリア教育が不十分であることがアンケートから読み取ることができます。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 計画的な教育相談だけでなく、生徒との日常的な対話を通して「思い」や「心配なこと」を積極的に聴き取り、ともに解決にあたっていける関係性を築きます。
- ・ 生徒の「困り感」を家庭と共有し、直接話し合っって即時対応をしていきます。年度初めの家庭訪問で保護者と担任がしっかり顔を合わせ、情報共有できる関係を築けるようにします。
- ・ 道徳や学級活動において、自他の生命を尊重する態度や思いやりの心の育成を重点化することに力を入れていきます。道徳について、今後も担任だけではなく、複数の教員が担当するスタイルをとり、「考え・議論する」道徳の授業の質を高めていきます。そして、生徒の心を耕していきます。
- ・ 学校で学んだことが社会でどのように役に立つのかを実感できるよう、職場体験や企業訪問等

の学校外での教育活動も重視し、キャリア教育の充実に努めていきます。

- あいさつすることの意味や重要性、また、あいさつの活性化のための方策を生徒会中心で話し合い、あいさつが飛び交う学校で生活することのよさを実感できるようにします。さらに、自分たちの力でよりよい学校をつくり上げたという達成感を味わわせるようにします。

◆視点4：家庭・地域・環境にかかわること

上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R3	R2	増減
15	学校（学年・学級）は、家庭や地域に、学校の取り組みや生徒の活躍の様子について、たよりやマ・メール、ホームページ等でよく伝えていていると思う。	44	44	11	0	89	94	↘
		58	34	8	0	92	94	↘
16	親として、学級通信や学年通信、学校通信等をよく読んでいる方だと思う。	31	51	17	1	82	85	↘
		58	29	10	3	87	89	↘
17	学校の教育環境が整備され、子どもは生活しやすいと思う。	46	51	3	0	97	94	↗
		77	21	3	0	97	93	↗
18	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できている。	28	38	31	4	65	79	↘
		56	23	18	3	79	78	↗
19	お子さんは、スマホやインターネットを利用する時、家庭で決めた約束事（使用時間やフィルタリング等）を守り、適切に利用していると思う。	17	44	31	8	61	56	↗
		64	29	7	1	92	88	↗
20	コロナ禍の中、学校行事等の時期や内容の変更、PTA活動の制限等がある中で、感染防止対策を行い、できる範囲で工夫して実施できている。	44	49	7	0	93	91	↗
		81	18	1	0	99	95	↗
21	学校は、家庭や地域、小学校等と連携し、活動していると思う。	38	54	8	0	92	95	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- 月1回、学校だより「協育」の発行。
- 各学年だより（適宜）、学級だより（毎週）の発行。
- 必要に応じて連絡網「マ・メール」を活用し、学校の判断事項や協力依頼、生徒たちの活動の様子などを配信し、タイムリーな情報共有。
- オンラインを活用した「新生説明会」の実施（東郷小・高崎小6年生向け）。
- 「メディアコントロール（生活習慣コントロール）」週間を、定期テストに向けた学習強化期間の年4回設定。
- 校医・学校歯科医・学校薬剤師の声を反映した学校保健委員会の実施。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- 各種たよりだけでなく、新聞やテレビなどのマスメディアを活用することで、生徒の頑張りが多方面に伝わったという実感があります。
- ホームページの更新が止まっており、コロナ禍で学校に足を運ばない保護者にとって学校での生徒の様子を知るすべがないというご意見をいただきました。
- コロナ禍にあり、地域とのつながりの強さという本地区の財産を利活用できず、本物に触れる学習や行事への貢献という点が不十分となりました。ただし、そのような中であっても、教育環境、教育資源に恵まれた地域であることに、生徒は誇りと感謝の気持ちをもっています。

【今後の方針や具体策について】

- ・ ホームページの更新を常時行い、常に生徒の様子を発信できるように努めていきます。
- ・ コロナ禍に対応しながら、生徒たちが地域に貢献していく活動を検討し、つながりを深めていきます（地域行事の実施可否に応じて対応）。
- ・ これまで通り、地域資源を存分に活用し、地域の良さに気付かせ、より深く生き方について考えさせる活動にしていきます。さらに、市教育委員会による「特色ある学校経営」を活用し、市内工業団地など「地域資源を活かした学習」「総合的な学習」に取り組みながら「キャリア教育」へとつなげていきます。
- ・ 生徒が自宅にタブレットを持ち帰り、常に学校と家庭でオンラインによる学びが構築できるよう、ICT環境をより整備していきます。
- ・ 生活習慣づくりは、メディアコントロールと密接な関係性があります。三中だけでなく、東郷小・高崎小との連携を大切にしていきます。「三中校区しこたん校友会」で共通の話題にして、指導と啓発を継続していきます。村山警察署生活安全課など専門機関と連携し、情報教育を継続していきます。
- ・ コロナ禍であっても、学校行事等の延期や中止は可能な限り避け、実施方法の見直しを行うことで「子どもの姿」を通して頑張りを伝えるようにしていきます。PTA学年総会や授業参観については、「3密」を避けるために分散する方法や、体育館などの広い場所で身体的距離を取るなど、安心安全に実施できるように検討します。

2月24日(木)の学校評議員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施方法を見直し、資料の送付をもって、後日ご意見をいただくことにしました。以下の通り、お一人お一人から、学校運営について貴重なアドバイスをいただきました。

①「新型コロナウイルス感染症」に係ることについて

- ・ コロナ禍に生徒たちは孤立状態に有り、学校が唯一の心の支えとなっております。学校・家庭・地域の連携が重要であり、経営方針に感銘しています。特に、三中の特色（少人数）を生かした授業や精神力向上の指導は、生徒たちの将来に大きく影響を与えますのでよろしく願いいたします。特に、命の大切さと自意識の向上が大切だと考えています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症により、生徒の活動の様子をほとんど見ることができず、大変残念です。従前の活動に一日でも戻れるよう、感染症の収束を願っています。
- ・ コロナ禍で学校行事も制限される中、工夫をこらして開催されたことは、大変良かったと思います。
- ・ 来年度は、保護者同士、先生方と保護者間、生徒と他保護者、生徒と地域間の交流ができることを願っています。

②「児童生徒数の減少傾向」について

- ・ 年々、児童生徒数が減少しています。小学校については、少人数・小規模でも成り立つとは思いますが、中学校は学校経営が破綻するのではないかと心配しています。この現状に、保護者はどのような考えをお持ちなのかも気になります。学校再編という考えも必要なのではないでしょうか。

③「生徒」について

- ・ 朝夕のあいさつは、自ら進んで交わすことができ、素晴らしいと感じています。学校評価の通り、生徒たちは立派に成長していると感じますし、いい面をさらに伸ばしてほしいと願っています。
- ・ 先生方のアンケートで気になることが、あいさつがうまくできていない点です。たかが「あいさつ」ではなく、社会に出てからも本当に大事なコミュニケーションツールであることを、生徒に対して繰り返し指導お願いします。
- ・ 高校・大学・専門学校卒業後、地元三中学区または東根市に生活拠点を置くように先生方のご指導に期待しております。

④「学校経営、学校評価」等について

- ・ 保護者、生徒用アンケートでは、昨年度と比較し、多少増減はあるものの、大きな変化はないと思います。ほとんどが満足度80%以上であり、低い評価についてはコロナの影響を受けていることも考えられます。来年度に向けて更なる満足度が得られるようによろしく願います。
- ・ 今後も学校経営の方針と重点に向けて生徒たちを受け入れ、三年間有意義な学校生活を送っていただきたいと思います。
- ・ 生徒たちが成長するには、先生と話をし、親子の会話があることが一番重要と思っています。話をすることによって様々なことを学び、生徒一人一人が活動の中心になって頑張りたいと思う理想の学校に一步ずつ近づけていただきたいと思います。